

## はじめに

多摩森林科学園のサクラ保存林には、伝統的な栽培品種および各地の名木などのクローンが約600ライン収集され、総数約1300本のサクラが植栽されています。このパンフレットでは、それらのうち主要な京都ゆかりの桜に焦点をあてて紹介しています。

桜の花を観賞する文化は、京都で発祥したと考えられます。そうした意味ではすべての桜は京都に関係しますが、このマップでは特に京都から広まったと考えられる桜に焦点をあてて紹介しています。地図を片手に、多様な美しい桜をお楽しみください。

多摩森林科学園長 吉丸博志

### 森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843

東京都八王子市廿里町1833-81

電話：042-661-0200

E-mail：kouhotama@ffpri.affrc.go.jp

ホームページ：

<http://www.affrc.go.jp/tmk/>

製作：多摩森林科学園

岩本宏二郎・勝木俊雄

発行：2015年3月9日

## 桜めぐりマップ

サクラ保存林で見る

## 京都ゆかりの桜



森林総合研究所

多摩森林科学園





## ○多摩森林科学園における サクラ保存林の取り組み

サクラ保存林は、農林省の桜対策事業の一環として、公害や老化によって衰退するサクラを保存することを目的に1966年度に設置されました。以後、古くからの栽培品種や各地の名木などさまざまな桜が導入され、保存・研究が行われてきました。

桜の保存は、接木や挿し木といった方法で行われます。原木から芽や枝を採取し、他の木の根株に接いだり（接木）、枝から根を出させる（挿木）ことで個体を増殖する方法で、原木と同じ遺伝子を持つ個体（クローン）の増殖を行います。サクラ保存林は、こうした接木で増殖したサクラを後世まで伝えることが目的です。したがって、どのような原木から増殖したのか、その由来がきわめて重要です。そこで科学園では、同じ由来を持つサクラを一単位とし栽培ラインとして管理しています。このパンフレットや保存林の表示板には、この栽培ライン名を表示しています。なお、参考情報として、生物の基本単位である種名や栽培品種名、導入元などについても表示しています。

## ○桜の栽培化の歴史

サクラは日本全国の野山にもともと自生する樹木です。花見の対象として栽培されるようになったのは、平安時代からと考えられています。はじめは野生のヤマザクラやエドヒガンを栽培していたと思われるが、そうした中から「枝垂桜」のような変わった形のサクラの栽培化も始まりました。鎌倉時代になると伊豆からもたらされたオオシマザクラが京都でも栽培されるようになりました。オオシマザクラは花が大きく、重弁化しやすい特徴をもっています。したがって、オオシマザクラを種子によって繰り返し増殖していく過程で、八重咲きの栽培品種が生まれたと考えられます。このため、伝統的な八重咲きの栽培品種の多くは、オオシマザクラが母体となっていますが、周囲にあったヤマザクラとも交雑しています。江戸時代になると、こうした変わったサクラが接ぎ木によって増殖され、各地に広まることで、現在に伝わる栽培品種が成立しました。

## ○京都御所の桜

御所にある紫宸殿は、南殿とも呼ばれ、天皇元服や節会などがおこなわれた宮廷の中心となる正殿です。紫宸殿の南には南庭が広がり、東にサクラ、西にタチバナが植えられており、それぞれ「左近の桜」と「右近の橘」と言われています。奈良時代では左近にウメが植えられていたのですが、平安時代の仁明天皇の代（833-850年）にサクラに代わったと云われています。現在でも京都御所には左近の桜が植えられていますが、平安時代にあったサクラがそのまま生き残ったものではなく、枯れると新しく植え替えることを繰り返しています。もとはヤマザクラだったと考えられていますが、時代によってはサトザクラも含めて様々なサクラが植えられたようです。現在の左近の桜は1998年に植え替えられたもので、純粋なヤマザクラではなく、オオシマザクラが交雑していると推測されています。



御所御車返



御所左近の桜



御所御車返



祇王寺祇女桜



鞍馬本社

## ○佐野藤右衛門

佐野家は京都の古い家で、当主は代々藤右衛門を名乗り江戸後期から京都の御室仁和寺に仕え、造園業を営んできました。十四代藤右衛門（1874~1934）からサクラを育成するようになり、京都の仁和寺や平野神社だけではなく東京大学や金沢の兼六園など日本全国から栽培品種や名木の収集保存をおこなうようになりました。戦時中の困難も乗り越えて十五代（1900~1981）・十六代（1928~）も親子三代で継続してサクラの保護育成を手がけており、現代の桜守とも呼ばれています。京都円山公園の「祇園枝垂」や金沢兼六園の「兼六園菊桜」など佐野家によって増殖され、守られた桜の樹は数多くあります。また「琴平」や「市原虎の尾」など佐野家によって見出され、世に広まった栽培品種も数多くあります。サクラ保存林にも佐野園から直接導入された、あるいは佐野園で増殖されて他機関を経由して導入されたサクラが数多くあります。



佐野の貴船



佐野の塩釜本社



佐野の御室有明



佐野桜



## A 祇園枝垂

ぎおんしだれ

①エドヒガン ② '枝垂桜' ③佐野園 京都府京都市 ④京都市円山公園にある京都のシンボリックな桜 昭和初期に枯れたあとに佐野園で増殖されたものが植えられたサクラ保存林の個体は種子から増殖されたと推測される ⑤盛春



## B 佐野桜

さのざくら

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ③京都府京都市 佐野園 ④先代の佐野藤右衛門によってヤマザクラの実生から選抜された八重咲きの桜 ⑤晩春



## C 高台寺

こうだいじ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ×カスミザクラ ③佐野園 京都府京都市 ④京都高台寺に原木があった 佐野園から増殖されたものが広まっている 花は微淡紅色で大輪半八重咲き 特徴に乏しく栽培品種としなかった ⑤晩春



## D 佐野の駒繫

さのこのまつなぎ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '太白' ③佐野園 京都府京都市 ④京都の青蓮院にあったと伝えられているが、佐野園への経緯の詳細は不明 ⑤晩春

※駒繫と大覚寺桜の図は佐野藤右衛門、桜、光村推古書院、京都、1961 より引用



## E 佐野の市原虎の尾

さのいちはらとらのお

①ヤマザクラ ② '市原虎の尾' ③佐野園 京都府京都市 ④1934年に市原の民家から佐野園が収集して増殖したもの ⑤晩春



## F 佐野の御室有明

さのおむろありあけ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '御室有明' ③佐野園 京都府京都市 ④仁和寺から佐野園で増殖されていたもので花は白色半八重咲き ⑤晩春



## G 京都の大沢桜

きょうとのおおさわざくら

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '大沢桜' ③京都植物園 京都府京都市 ④佐野園から京都植物園に導入されたと考えられる ⑤晩春



## H 佐野の大覚寺桜

さののだいかくじざくら

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '大沢桜' ③佐野園 京都府京都市 ④大覚寺の大沢池にあったという大覚寺聖天桜と思われる 形態も遺伝子型も大沢桜と同じで、花は淡紅色で八重咲き ⑤晩春



## I 寝覚

ねざめ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ③静岡県三島市 遺伝学研究所 ④遺伝研で寝覚として栽培されているものは現存しておらず詳細不明 京都平野神社にあったものと推測される 花は淡紅色で半八重咲き ⑤盛春



## J 佐野の塩釜本社

さのしおがまほんしゃ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '御室有明' ③佐野園 京都府京都市 ④佐野園から塩釜本社として導入 仁和寺の御室の桜と同じクローンで花は白色半八重咲き 宮城県の塩釜桜との関係は不明 ⑤晩春

## K 鞍馬本社

くらまほんしゃ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '関山' ③佐野園 京都府京都市 ④佐野園以前の履歴は不明 京都の鞍馬寺にあったと推測される ⑤晩春

## L 御所左近の桜

ごしょさこんのさくら

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ③遺伝学研究所 静岡県三島市 ④静岡県御殿場市の自然真道から遺伝研に導入と推測される 明治時代の左近の桜の系統で現在の左近の桜とは異なる ⑤晩春

## M 祇王寺祇女桜

ぎおうじぎじょざくら

①オオシマザクラ×カスミザクラ ③佐野園 京都府京都市 ④京都嵯峨の中院にあった八重咲きの桜で祇王寺に移植された 荒川堤にあった祇女とは異なる ⑤晩春

## N 佐野の貴船

さののきぶね

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '御室有明' ③佐野園 京都府京都市 ④京都市貴船にあったもので佐野園が貴船雲珠として増殖した 仁和寺の御室の桜と同じクローン ⑤晩春

## O 突羽根

つくばね

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '梅護寺数珠掛桜' ③佐野園 京都府京都市 ④平野神社にあった突羽根を佐野園が増殖したと推測される 科学園にあるものは新潟県梅護寺のものと同じクローン 花は菊咲きが特徴 ⑤晩春

## P 御所御車返

ごしょみくるまがえし

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '御所御車返' ③佐野園 京都府京都市 ④京都御苑の中立売御門の東にあり、佐野園から導入されたもの ⑤晩春

## Q 常照皇寺の九重桜

じょうしょうこうじのここのえざくら

①エドヒガン ② '枝垂桜' ③常照皇寺 京都府京都市 ④南北朝時代に北朝初代の天皇であった光厳上皇が常照皇寺を開いたおりに植えたといわれている 国天然記念物 ⑤盛春

## R 手弱女

たおやめ

①ヤマザクラ×オオシマザクラ ② '手弱女' ③佐野園 京都府京都市 ④平野神社から佐野園が増殖したものと考えられる 花弁数は10枚前後の八重咲きで京都を代表する栽培品種 ⑤晩春





# 京都ゆかりの桜

## 案内図

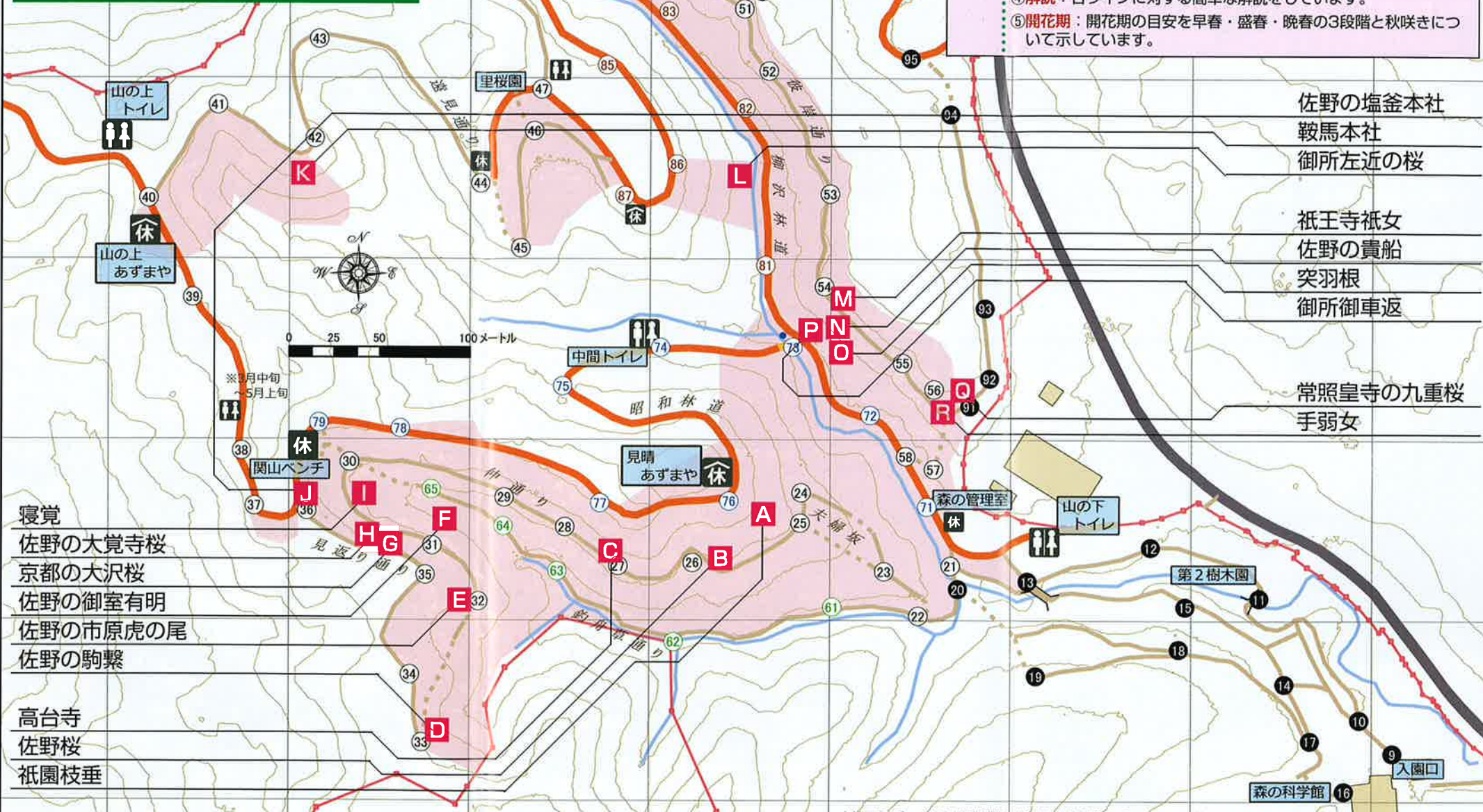
※図中の○数字は、歩道沿いに設置された標識杭の番号を表しています。

### 下表の凡例

**栽培ライン名** さいばいらいんめい

※原則的に導入元と導入時の名称を栽培ライン名としています。ただし、明らかに間違った名称で導入された場合や、原木の現地名と大きく異なっている場合などは変更した名称を用いています。

- ①種名：各栽培ラインの種名を示しています。変種は区別していません。雑種は識別が可能な種について示しています。
- ②栽培品種名：栽培品種名がある場合に示しています。栽培品種名はない場合もあります。
- ③導入元：導入元の組織名・地名・人名等と市町村を示しています。
- ④解説：各ラインに対する簡単な解説をしています。
- ⑤開花期：開花期の目安を早春・盛春・晩春の3段階と秋咲きについて示しています。



- 佐野の塩釜本社
- 鞍馬本社
- 御所左近の桜
- 祇王寺祇女
- 佐野の貴船
- 突羽根
- 御所御車返
- 常照皇寺の九重桜
- 手弱女

- 寝覚
- 佐野の大覚寺桜
- 京都の大沢桜
- 佐野の御室有明
- 佐野の市原虎の尾
- 佐野の駒繫
- 高台寺
- 佐野桜
- 祇園枝垂

本地図のデータは国際航業株式会社から提供を受けたものを使用しています。